

地域医療支援病院業務報告書

平成 23 年 10 月 5 日

静岡県知事 川勝 平太 様

静岡市葵区漆山 8 6 0  
静岡県立こども病院  
開設者 地方独立行政法人県立病院機構  
理事長 神原 啓文



平成 22 年度の業務について、次のとおり医療法第 12 条の 2 の規定により報告します。

- 1 地域医療支援病院の名称  
静岡県立こども病院
- 2 開設の場所  
静岡市葵区漆山 8 6 0
- 3 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績  
別紙のとおり
- 4 共同利用の実績  
別紙のとおり
- 5 救急医療の提供の実績  
別紙のとおり
- 6 地域医療の医療従事者の資質向上を図るための研修の実績  
別紙のとおり
- 7 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
別紙のとおり
- 8 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績  
別紙のとおり
- 9 医療法施行規則第 9 条の 19 第 1 項の委員会開催の実績  
別紙のとおり
- 10 患者相談の実績  
別紙のとおり



### 3 紹介患者への医療提供及び他院への患者紹介の実績

地域医療支援病院紹介率	算定期間	平成 22 年 4 月 1 日～
96.0%		平成 23 年 3 月 31 日
算出根拠	A : 紹介患者の数	3,773 人
	B : 救急患者の数	409 人
	C : 初診患者の総数	4,358 人

他の病院又は診療所に紹介した患者の数	1,859 人 (1,859 人)
--------------------	----------------------

- 注 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、A、B の和を C で除した数に 100 を乗じて、小数点以下第 1 位までを記入すること
- 2 地域支援病院紹介率が 60%以上 80%未満の病院にあつては、承認後 2 年間で地域医療支援病院紹介率を 80%以上にするための具体的な年次計画を併せて提出すること
- 3 他の病院又は診療所に紹介した患者数については、括弧内に「A : 紹介患者の数」のうち、他の病院又は紹介所に紹介した患者の数を併せて記入すること

#### 4 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用

(共同利用) のための体制が整備されていることを証する書類

##### (1) 共同利用の実績

- ・ 院内図書館の書籍の貸出 (医療関係者、公共図書館を通じての提供)
  - ① 院外医療関係者 3件4名
  - ② 公共図書館を通じた資料の紹介・提供 4件
  - ③ 公共図書館への医学情報研修講習会2回 延べ100人
- ・ 建物等の共同利用 (研修会等への開放) 5回 延べ170人

注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率等を明記すること。

##### (2) 共同利用の範囲等

- ・ 5 病床
- ・ 高度診断機器 (MRI・CT)
- ・ こども病院図書室

注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

#### 共同利用の体制

- ・ 共同利用に関わる既定の有無  有 ・ 無
- ・ 利用医師等登録制度の担当者 氏名：愛波 秀男  
職種：医師

注) 共同利用に関わる規定がある場合には、当該規定の写しを添付すること。

(3) 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
別添資料のとおり				

注) 当該医療機関と同一の2次医療圏に存在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	5床
--------------	----

### 3 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送用自動車により搬送した救急患者の数	423 人 (182 人)
上記以外の救急患者の数	1,520 人 (240 人)
合計	1,943 人 (422 人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ患者数を記入すること  
括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること

救急用又は患者輸送用自動車	1 台
---------------	-----

ドクターヘリの搬送件数	58 件
-------------	------

#### 4 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

##### (1) 研修の内容

##### ア 子ども病院講演会

開催日	演題及び講師	参加者		
		院内	院外	合計
平成22年9月28日	予防接種講演会-インフルエンザワクチンと他の新しいワクチン- 国立感染症研究所 感染情報センター第1室長 谷口清州	87		87
平成22年10月22日	未病について 2000年前から現代まで 東邦大学総合診療・急病科学講座客員教授 松岡尚則	41		41
平成23年2月18日	予防接種講演会-新しいワクチンの最近の動向- 日本赤十字社医療センター 小児科顧問 藪部友良	60		60
研修者実数		188		

##### イ 子ども病院オープンセミナー

平成22年6月2日	小児白血病-小児がん経験者のより良い生活を求めて 県立子ども病院 血液腫瘍科 工藤寿子	33	4	37
平成22年6月3日	発達障害児のペアレントトレーニング 県立子ども病院 発達心療内科 小林繁一	23	24	47
平成22年7月1日	小児の鎮静・鎮痛 県立子ども病院 救急総合診療科 黒澤茶茶 麻酔科 堀本洋	45	4	49
平成22年9月2日	喉頭軟化症に対する喉頭顕微鏡下手術 県立子ども病院 小児外科 福本弘二	30		30
平成22年10月2日	小児期の不整脈 県立子ども病院 循環器科 芳本潤	40	3	43
平成22年11月4日	低身長について-成長ホルモン治療の近況- 県立子ども病院 内分泌科 上松あゆみ	22	4	26
平成22年12月2日	古くて新しいビタミンK (VK) -今後の展開- 県立子ども病院 産科 西口富三	31	15	46
平成23年2月3日	血管種治療のびびがいちご状血管腫に対するアブラール内服療法と単純性血管腫に対するレーザー (V-beam) 治療を中心として 県立子ども病院 形成外科 木下佳緒里	21	7	28
平成23年3月3日	麻酔科専門医が考える気道確保のポイントとピットフォール 県立子ども病院 麻酔科 山口嘉一	53	2	55
研修者実数		361		

研修者実数		549		
-------	--	-----	--	--

##### (2) 研修の実績

研修者数	549人
------	------

##### (3) 体制

- ① 研修プログラムの有無  有 ・ 無
- ② 研修委員会設置の有無  有 ・ 無
- ③ 研修指導者

研修指導者氏名	職種	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和田 尚弘	医師	腎臓内科	医長	25年	研究研修委員会委員長
加藤 寛幸	医師	救急総合診療科	医長	年	同副委員長
谷澤 みどり	看護師		教育看護師長	年	〃

(4) 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積 (㎡)	設備概要 (主な設備)
会議室・研修室	293.53	液晶プロジェクタ、オーバーヘッドプロジェクタ、ワイヤレスAP、ビデオシステム 外
放射線科	579.96	X線投資連続装置、心臓血管連続投影装置、MRI、コンピューターテクトラシオグラフィ、ガンカメラ 外
臨床病理科	674.22	電子顕微鏡、自動化学分析装置、自動細胞解析分取装置、血液ガス分析装置、多用途脳波計 外
図書館	150.83	医学関連図書 17,300冊 移動式書架、文献検索用パーソナルコンピュータ、コピー機 外

5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者氏名	病院長	瀬戸嗣郎
管理担当者氏名	事務局医事課長	川島喜文

		保管場所	分類方式
診療に関する諸記録 診療録（カルテ）、処方箋、看護記録、検査記録、エックス線写真		病歴室 放射線科 臨床病理科	1患者1番号制でカルテを作成し、ターミナルデジット方式により、分類保管している。(病院日誌、診療日誌、看護記録等もカルテとともに病歴管理室に保管) ただし、レントゲンフィルム・脳波・心電図等は放射線科、臨床病理科でそれぞれ保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	医事課	実績を記録し、年度ごとに保管
	救急医療の提供実績	医事課	実績を記録し、年度ごとに保管
	地域の医療従事者の資質向上を図るための研修の実施	医事課	実績を記録し、年度ごとに保管
	閲覧実績	医事課	実績を記録し、年度ごとに保管
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	医事課	実績を記録し、年度ごとに保管

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記録する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者氏名	病院長
閲覧担当者氏名	事務局医事課
閲覧の求めに応じる場所	事務局医事課

前年度の総閲覧件数（診療録等）		15件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	15件

(注) 閲覧件数については、前年度の総延べ数を記入のこと。

## 7 委員会の開催の実績

委員会の開催回数 1回

### 委員会における議論の概要

(1) 委員会名 「平成22年度地域医療連携事業運営委員会」

(2) 開催日 平成23年2月17日

(3) 開催場所 静岡県立こども病院

(4) 出席者

(ア) 委員長（委員の互選による）

篠原 彰 静岡県医師会副会長

(イ) 委員

- |   |       |                   |
|---|-------|-------------------|
| ① | 赤堀 彰夫 | 静岡県医師会理事          |
| ② | 青山 茂夫 | 静岡市静岡医師会理事        |
| ③ | 池田 恵一 | 静岡県立こども病院ほほえみの会代表 |
| ④ | 岩見 良憲 | 静岡県立中央特別支援学校校長    |
| ⑤ | 鶴田 憲一 | 静岡県健康福祉部理事        |
| ⑥ | 上田 憲  | 静岡県小児科医会会長        |
| ⑦ | 加治 正行 | 静岡市保健所長           |
| ⑧ | 山田 静雄 | 静岡県立大学薬学部教授       |
| ⑨ | 吉田 隆實 | 静岡県立こども病院長        |

事務局より、当病院の「運営方針」、「運営状況報告」、「地域医療連携室の活動及び活動予定」等について説明した。

(5) 質疑応答の概要

(ア) 平成22年度 こども病院の運営方針

(イ) 平成21年度 こども病院の運営状況報告

(ウ) 平成21年度 地域医療連携室の活動報告

(エ) 平成22年度 地域医療連携室の活動報告

(オ) こども病院の取組紹介

① 腎臓内科と地域医療との連携（北山浩嗣 腎臓内科医師）  
－血液浄化（透析）をとおして－

② 当院における緩和ケアチームの活動（鈴木崇代 薬剤室長）

（注）委員会の開催回数及び議論の概要については、前年のものを記載すること。

## 8 患者相談の実績

患者相談を行なう場所	相談窓口・相談室・その他（ ）
主として患者相談を行った者 (複数回答)	地域医療連携室 看護師 鈴木裕美 保健師 松本克代 メディカルソーシャルワーカー 城戸貴史 // 油井仁美
患者相談件数	延べ 6,861 件
患者相談概要	
<p>経済的負担（健康保険、公費負担制度の活用、医療費支払）</p> <p>福祉制度（身体障害者手帳、療育手帳、手当、各種制度活用）</p> <p>療育に関すること（入院、退院、受診、療養生活）</p> <p>家族に関すること（家族関係、過程調整）</p> <p>他機関利用（施設入所、ショートステイ、デイケア利用）</p> <p>療養・教育（終焉、就学、障害児保育）</p> <p>その他</p>	



医療機関名	法人名	医師名	診療科目	郵便番号	住 所	電話番号	FAX番号
ら(羅)眼科	✓	羅 錦賢	眼	422-8067	静岡市駿河区南町14-25	054-202-1688	054-202-1698
渡辺外科医院	✓	渡辺 善明	外	424-0884	エスエフビル201-H	0543-46-8105	0543-46-8701
渡辺内科医院	✓	渡辺 栄一	内	424-0835	静岡市清水区草薙一里山3-33	0543-52-2538	0543-51-3208
静岡県立総合病院	✓	上野山 裕巳	小	420-8527	静岡市清水区上清水町11-18	054-247-6111	054-247-6140
		原崎 正士	小	420-8527	静岡市葵区北安東4-27-1	054-247-6111	054-247-6140
		川上 俊亮	小	420-8527	静岡市葵区北安東4-27-1	054-247-6111	054-247-6140
静岡市立静岡病院	✓	東 卓司	小	420-8630	静岡市葵区追手町10-93	054-253-3125	054-252-0918
静岡市立清水病院	✓	鶴田 信	小	420-0853	静岡市葵区追手町10-93	054-253-3125	054-252-0918
静岡済生会総合病院	✓	上牧 務	小	424-8636	静岡市清水区宮加三1231	0543-36-1111	0543-34-1173
		三木 真	小				
		古田 千左子	小				
		小坂 利幸	小				
		廣岡 孝子	小				
		前田 輝子	小				
		山田 百合子	小				
		小杉 百合子	小				
		岩瀬 一弘	小				
		横地 真樹	小				
		石田 敦士	小				
		山本 彩香	小				
		宮地 雅直	小				
相地 麻里	小						
竹内 治恵	小						
川出 博江	小						
総合病院 静岡厚生病院	✓	河合 里美	小	420-8623	静岡市葵区北番町23	054-271-7177	054-273-2184
総合病院 清水厚生病院	✓	小栗 泉	小				
総合病院 清水厚生病院	✓	窪田 都	小	424-0114	静岡市清水区庵原町578-1	0543-66-3333	0543-64-5503
社会保険 桜ヶ丘総合病院	✓	田代 直	小	424-0836	静岡市清水区桜ヶ丘町13-23	0543-53-5311	0543-53-5317
総合病院 清水厚生病院	✓	遠藤 雄策	小				
総合病院 清水厚生病院	✓	永田 絵子	小	424-0114	静岡市清水区庵原町578-1	0543-66-3333	0543-64-5503
山の上病院	✓	医療法人 社団健寿会	内・整・リハ	424-0104	静岡市清水区草ヶ谷651-7	0543-63-1023	0543-63-1011
静岡徳洲会病院	✓	医療法人 沖繩徳洲会	小	421-0113	静岡市駿河区下川原字家下1268	054-256-8008	054-256-8020
静岡市障害者歯科保健センター	✓	小坂 晴香	歯科衛生士	420-0846	静岡市葵区城東町24-1	054-249-3147	054-209-1063

134医療機関

1579

院長	長谷川 副院長	坂本 副院長	小林 副院長	事務部 長	看護部 長	次長兼 経営室長	医事監	愛波地域 連携室長	室員	担当
吉田	長谷川	坂本	小林	事務部	岡村	次長兼	川島	愛波	鈴木 堀 松本 佐藤	高木

## 平成22年度地域医療連携事業運営委員会 議事録

日 時	平成23年2月17日(木)	場 所	L棟3階大会議室
出席者 19名	委員：赤堀委員 青山委員 池田委員 岩見委員 篠原委員 上田委員 鶴田委員 吉田委員（外部委員7名）加治委員は欠席 事務局他：県医師会事務局 小林事務部長 岡本看護部長 愛波地域連携室長 鈴木 地域連携室看護師長 松本主査 北山腎臓内医師 鈴木薬剤室長 川島医事監 高木主幹 佐藤主査（医師会1名 職員12名）		
審 議 内 容			
1 開会 (15:00) 2 院長挨拶 (吉田院長) ご出席ありがとうございます。昭和52年に開院し、地域支援病院の指定を全国で33番目に受けました。小児の専門病院としての目的を持って、地域医療に携わっております。当委員会からは毎年今後考慮すべきご指摘を賜り感謝しております。よろしくお願ひします。 3 委員長の選任 前回委員長の篠原委員に、仮委員長になっていただき、委員からの互選について検討。他の委員から発言なく篠原委員が委員長に選任された。 篠原委員長の挨拶 地域支援病院として存続するために地域医療連携事業運営委員会を開きます。最近盛んに自治体病院が開院し、全国で4カ所。こども病院は地域医療を支援する病院として評価できる。診療報酬の加算が減っており今後も減るだろう。連携医療が報われないこととならない様、今後を見守ってゆきたい。 4 議題 次第により説明 議題1 吉田院長説明 (15:06~15:09) 議題1 小林事務部長 (15:09~15:14) 議題2・3 愛波地域医療連携室長 (15:14~15:20) 議題4-①北山腎臓内医師 (15:20~15:33) 議題4-②鈴木薬剤室長 (15:33~15:43)			

## 5 質疑応答

### 質疑及び意見交換

(赤堀委員) 在宅呼吸管理をする様な子供が、大きくなり地域に出て行く。ハンディキャップを負って社会に出たときに、恋愛や人付き合いで切ない思いをすることがあるが、その様なフォローや取り組みはしているか。

(吉田委員) 18歳まで診て、その後は県総に医学的な治療を引き継いでいる。しかしそういったフォローまで診るシステムはない。社会に適用できる様な次の段階を考えるのは難しく、フォローを誰が何処でするか答えが出ていない。以前文部科学省が登録制で行ったことがあったが、立ち消えとなっている。

地域連携室から在宅+近所の掛り付け医師へお願いする場合には、大病院のバックアップがないと難しい。色々アプローチしている中、素直に受け入れてくれる病院は無い。

(篠原委員) 以前から訪問看護ステーション協議会に参加しているがどうか。

(吉田委員) 地域連携室には看護師、保健婦、MSW がいて、訪問看護ステーションにも連携している。訪問看護ステーションの場合、子供の障害が重度になると扱えるステーションは少なく、成人よりも小児は難しい。

(上田委員) 開業して難しさを感じるのは、小さい内は、母親に背負われて来ていた患者が大きくなって、母が背負えない。診療スタイルとして、今では往診に回る時間もなくてできない。17~8歳になって車いすで来院すると、至る所バリアだらけである。今こども病院では救命医療を行い、できるだけQOLを上げてきているが、社会にどのように入って行くか、準備ができていない状態。そういうシステムがない。

大人が難病になった場合、既に人生観ができあがっている。子供の場合、子供自身の考えが定まっていない状況で、生死の考え方に直面する。海外では宗教がその人を支える基盤になることもある。日本には支える宗教的基盤がない。宗教が病院のバックボーンにない。

(吉田委員) 心理的バックボーンが必要だが、今は無理。職員の職種を増やしてきている。病院の中で次のステップを考えてゆきたい。

(篠原委員) 鈴木薬剤室長の、麻薬の処方で終末期を自宅で過せた紹介をされたが、自宅でなくなるのが幸せでしょう。連携してこれからも取り組んでください。

(鶴田委員) 患者数の紹介で21年度から続けて1割増だが、マンパワーが不足していないか。21年度の訪問看護利用者数に比べ22年度が少なくなっていないか。

(吉田委員) 児童精神科を新設し医師5名、臨床心理士1名、OT1名が付いたので負担にはなっていない。

(愛波地域連携室長) 地域連携室の業務量が決して減っているわけではない。各地域訪問看護、保健センターと連絡を密にして実践している。

(上田委員) 発達心療内科への紹介をするが、4~5ヶ月待ち。紹介時点で患者や家族は切羽詰まった状態なので、1~1.5ヶ月で受診できる様にして欲しい、地域の医院で診療してでも。

16:05 終了

事務から 謝金をお支払いするので振込先をFAXで教えてください。